

## 自然界の平行する次元

我々が生きているこの三次元は、物質的な世界です。そして、宇宙には、この物質的な世界と平行する多くの不可視の次元、多くの層が存在しています。けれども、それらは目に見えない故に、多くの人々は信ずることができません。そして、自然界のいとなみも、表面的に、機械的にくり返されるもののように考えています。でも、本当はそうではありません。自然界は法のもとに、知性によって導かれ、コントロールされています。今回は、自然界の知性についてです。そして、宇宙の多くの次元と、それらの次元の見えない存在たちがあるということ。そのような宇宙の中で、我々人間が、なぜ、この物質界におかれているのか、我々がなにを知り、なにをしなければならぬかということについてです。

### 1. 宇宙に存在する無限の次元、アストラル界

宇宙は、創造主によって創造されました。万物の創造主は、言葉や形で表現したり、とらえることは不可能です。すべてを超越するもの、理解を越えるものだからです。万物の生命の源から、創造の表現が成され1が生まれ、そして2が生まれました。宇宙のすべてに、永遠に存在する二元性です。ですから、宇宙は陰と陽、上と下、進化と退化が常に存在しています。可視の物質的な世界、不可視の霊的な、精神的な世界が存在します。そして、高次の存在と低次の存在、光と闇の存在があります。それは、2つの永遠なる闘いです。宇宙はエーテル（気、霊気）と、そのエーテルのエネルギーによって成っています。より繊細な精妙なものであるか、そして、より粗雑な洗練のない重いものであるか。そのように、エーテルの振動数の違い、波動（バイブレーション）の違いによって、宇宙には無限の次元、段階が存在します。自然界は、4つの要素（火、水、土、空気）によって成り立っていますが、エーテル（14号13ページ参照）は、生命を与える第5の要素であり、目に見えない霊気、空です。それは要素というより、エッセンスと言うべき純粋な、クリスティックなエネルギーです。それを、我々は自分の性腺の中に持っているのです。空というと、我々は無、全くなにもない無だと考えてしまいがちです。でも、空、無の真の姿は不可視のエーテルの充満した姿、目に見えない泡のようなエーテルが存在している姿です。宇宙のいたる所にエー

テルが存在し、宇宙のすべては、エーテルの異なる表現であると言えます。ですから、すべての惑星、動植物、そして人間も固有の波動、振動数を持ち、それぞれに段階にいます。それは物質的な段階であり、精神的な段階です。可視の世界は物質的な世界、つまり、物質的な面での進化の段階があります。この太陽系



創造主と創造

という物質的な惑星の世界では、地球は最も遅れています。死んだ星である月を除き、他の惑星は、物質的に地球よりも高い段階にあります。そして、霊的にも、地球の人間より進化した段階にある生命が存在しています。このように、物質的な洗練、進化と、精神的な浄化、進化が存在します。物質的な段階と精神的な段階です。そして、2つの段階の交差したところ、その見えない十字の中心に、我々は位置しています。一人一人が、独自の十字を形作りながら、自分自身のあるがままの位置にいます。我々の目的、それは、我々の中で最も崇高な魂の願いを実現することです。それは、我々が意識をもってより高い次元に上昇し、宇宙の中でより有益な存在となること、そして、純粋な黄金の衣をまとった魂となって故郷へもどることです。

すべての宇宙は進化のために、人間の進化のために創造されています。人類のすべての魂のために与えられているものを、最大限に生かさなければなりません。すべてを生かすということ、生かせるということに習う必要があります。

### 大宇宙と小宇宙としての人間

我々人間は、大宇宙（マクロコスモス）のすべてを反映している小宇宙（ミクロコスモス）です。そして、大宇宙の中で、それぞれの惑星や地球自身も、一つの小宇宙と言えます。同時に、我々の肉体という大宇宙の中であって、我々の肉体を構成する一つ一つの細胞が、小宇宙でもあります。このように、全宇宙の創造、その生命の法はすべての次元、段階を貫いています。全宇宙の中心には、絶対太陽が存在します。創造主、至高の知性でもある絶対太陽によって、全宇宙が導かれ、コントロールされています。我々の属している太陽系にも、太陽が存在しています。そして、この太陽にも、また地球や他のそれぞれの惑星にも、その星の中心に、太陽に相当する部分と、その存在があります。すべての惑星の中心には司令室があり、その惑星を導きコントロールする知性、天才が存在しています。6号9ページの表にのっているリージャント・主がそれです。そして我々の肉体も一つの宇宙です。ですから、我々の肉体にあっては、心臓が太陽に相当します。そこに我々の至高の存在、魂と聖なる父が存在しています。これは、一つ

1つの細胞、1つ1つの原子（アトム）という段階にもあてはまります。1つの細胞、1つの原子にも、魂に相当する知性が存在します。それが細胞の意識、細胞記憶です。それは、1本の草や木、1匹の動物にもあてはまります。このように、自然界では、目に見えない内的な部分に、知性が存在します。つまり、1本のバラや1つの水素という物質の持っているエーテル的な部分、そこに自然界の精、精霊（エレメンタル）が存在しています。そしてそれらの精は、その精をコントロールする指揮者であるデバ、神に導かれています。そして、それぞれの神は、その神の属している惑星の主と結ばれ、惑星の主は、その惑星の属する太陽とつながっています。そして、それぞれの太陽系の太陽は、大宇宙の絶対太陽につながっています。このように、全宇宙に存在するものは、すべて、1つに結ばれています。はてしない鎖の輪のように、すべてが関連して存在しています。それはちょうど、巨大なコンピューターが、1つ1つの部品があるべき場所にあり、果たすべき役割を持って働いているようなものです。すべてが生きています。すべてのものが、独自の機能と役割を持って生きています。かつて、我々も自然界の精だったかもしれません。その我々が、人間の段階に至ることができたのは、我々の努力によってではありません。自然界のプロセス（過程）にしたがって、進んできたのです。これから先は、我々自身が切り開いていく道です。すでに通ってきた道へ、低次の世界へともどっていくのか、それとも、広大な無限に続く高次へと歩を進めるのか。我々は、ただ、理由もなく、バラバラにここに存在しているではありません。たえまなく、永遠に続く宇宙の根源に向かう道の、その一里塚として、今、ここにいます。

#### **見えない次元の存在と人間の進化**

この地球には、鉱物界、植物界、動物界があり、それぞれに多くの生きものが住んでいます。また、45億の人間が住んでいます。このように、目に見える生命体だけでなく、20兆もの、肉体を持たない不可視の存在があると言われます。これまでも説明してきましたが、動物や植物は、その種としての集団的な霊に属していて、いつもその精霊、知性に結ばれ、コントロールされています。ですから、我々が本当に自然を、生命を理解するためには、1本の草木、1匹の虫や動物の奥にあるものを理解しなければなりません。我々が感性を繊細にし、感覚機能を開発していくなら、それらの不可視の世界に浸透し、足をふみいれていくことができます。そして、自然界の精霊や、その精を導く神々と、直接、交信することも可能です。このように、目に見える世界の奥に存在する不可視の次元を理解することなしに、生命の真実を理解することはできません。ノーシスは、この物質界に平行する不可視の次元、不可視の存在があるということを教えます。そして、それらの次元の存在との交信が、なんの仲介もなく、我々自身でできるということを教えます。我々自身が、本当に自分自身を理解し、人生を理解し、生命を理解していくために、そして、与えられているすべてのものを、バランスをもって

生かしていくためにです。

我々人間は、創造の光、火花として旅立ち、天の川を通り、銀河系、太陽系を通り、地球に至りました。そして、いわゆるミネラルとして鉱物界を通り、さらに植物界、動物界を通過して人間の段階に至りました。ここまでは、自然のままの進化でした。親の保護の下に育てられ、年齢がきたために小学校へ入学した子ども



自然の諸段階

のようなものです。ですから、我々人間は、この地球上で学び、一つ一つの試験に合格し、卒業していかなければなりません。それは、一人一人、自分で行わなければならないことです。これが意識をもって進む進化の道です。人類の95%は、ごく普通の一般大衆である存在です。そして、4%がより進化した、意識あ

る存在、そして1%がイニシエート・奥儀を伝授された存在、マスター、超自然的な存在です。このように、我々は哺乳類の人類としてではなく、本当の人と成ることをめざさなければなりません。人間から完全な人へ、アデプト（佛依者）に、そしてイニシエート、マスターへと。そのために、324,000回もの転生の時間を与えられています。そして、地球の学校を卒業したら、太陽系の惑星間の住人、銀河系宇宙の住人となって、より高い学校へ入り、最終的な卒業をめざすのです。このように、我々のいる三次元の上には、四次元、五次元……と、13段階の高次の世界、13のアエオンが存在しています。下には9段階、低次の地獄、鉱物界が存在します。108回の転生を終えた後に、生きている間に浄化されなかった心理を、ここで洗浄します。地獄の様子は、よく火で焼かれたりする世界として表わされますが、それは、我々のサイキック（心理的、心靈的）な汚染を火で浄化するためです。すべてのエネルギーの浄化、変換は、火によって成されるからです。そして、すべての汚染が洗浄された後、まだ転生の時間が残っているなら、人間として、再びこの地上に生まれて来ます。もう転生の時間が終わっているなら、純粋なエッセンスとして、宇宙の中、自然界の中で永遠に平安に存在します。落ちるのは、本当に楽です。エゴの重さのまま、引力のままに落ち、退化するだけなのですから。たとえば、大変、肉食で怒ってばかりいて退化した人は、動物界にもどり、荒々しい牡牛になる可能性があります。植物界では、ジャングルなどの食肉植物になるかもしれません。そして、さらに退化して、鉱物界で心理を洗浄されます。完全に洗浄されるまで、そこにとどまることとなります。また、大変なねたみのために、他人を攻撃し、落とし入れるような人は、サソリ

になるかもしれません。そして、非常に肉欲的であったり、浮気ばかりして性的に頓死した場合は、猿や犬になるでしょう。現在すでに、人間でありながら尾があったり、体毛が異常に生えて生まれて来る子どもがいます。それはもう、退化の過程が始まっているということです。そして、忘れてはならない点は、退化は罰ではないということです。退化は、一人一人の心理によります。我々の心理が、我々の行先を方向づけているということです。自分の心理の引きつけあう所、磁氣的に引きつけあう段階に行くのです。ですから、我々自身の自発的な意志によって、高次に至るための努力を、意識をもって行わなければならないのです。

さて、我々人間は、肉体、霊（心理・サイキス）、魂を持って、三次元に存在しています。2号で、人間は王ねぎのようなものだと言明しましたが、この無教の皮でおおわれた最も奥深くに、我々の魂が存在しています。無教の皮——それが肉体という物質の皮であり、霊体（エーテル体）であり、またパーソナリティやエゴの不可視の皮です。我々の内に宿る憎しみのエゴ、怒りのエゴ、うぬぼれのエゴ、情欲のエゴ、怠惰のエゴ、偽善のエゴ、それら1つ1つのエゴすべてが、我々の魂をとじこめている1枚1枚の皮です。8号の最後のページの絵を、もう一度ごらんください。裸の男女がいます。なぜ、裸なのでしょう。それは、魂にまわりつく不必要なもの、一切を脱ぎ捨てなければならないからです。至高の故郷から、この地上に降り来た魂は、再び故郷に帰ることを願っています。この地上にしばりつけ、さらに落としめるエゴの重苦しい衣を脱ぎ捨てたいと願っています。裸の赤子のように無垢な魂が、さらに経験と永遠の価値を身につけ、故郷へ帰りたいと、我々を押しています。我々の肉体は地球に属します。肉体は物質界という三次元のもので、我々の霊・心理（サイキス）は月に属します。我々の霊の体は、エーテルでできているエーテル体（生命体）で、それは四次元のもので、このエーテル体にも、いくつもの段階、層がありますが、主な働きによって分類すると、4つに分けられます。それが生命エーテル、発光エーテル、反射エーテル、化学エーテルという我々の生化学的命を司っている成分です。たとえば、我々の妊娠のためには生命エーテルが、食物の消化吸収のためには化学エーテルが働きます。そして、我々の意志や記憶のためには反射エーテルが働きます（2号参照）。ですから、それらは、肉体の臓器の働きによるものではないということがおわかりでしょう。エーテル体は、主に4つに分けられますが、それらは分かれて存在しているのではなく、互いにとけあって浸透しあって存在し、働いています。ですから、我々の睡眠中に、肉体の健康回復のために働くエーテル体も、たった1つのエーテル体が働いているわけではありません。互いに浸透しあったエーテル体が肉体を出入りして、より良いバランス回復のために働いています。これらのエーテル体が一体となって、心理、サイキスをつくっています。そして、これらのエーテル体が肉体の外へ出たもの、それがアストラル体です。ですから、夢の世界では、我々のアストラル体が使われています。夢は我々

のアストラル体、肉体の外へ出たサイキス（心理）の持つ体験と言えます。アストラル体が肉体の外へ出る時は、我々の魂だけでなく、エゴやパーソナリティも一緒に外へ出ます。ちょうど、肉体という物質的な体を、外からリモートコントロールしているような状態です。動物や植物は個別の霊は持ちませんから、はじめからリモートコントロールされているようなものです。たとえば、1本の花の精は花の中にいるのではなく、花のそば、外にいて、その花の成長を見守り、導いています。ですから、人間が死ぬ時には、体重が変化します。事故にあった人などを運んでいる最中に、ふっと軽くなったような感じがした時、その人物が亡くなったという話を聞いたことはありませんか？これは人間だけに言えることです。我々の肉体は三次元に、霊・心理（サイキス）は四次元に属します。そうすると、我々はすでに三次元と四次元にいます。そして、我々のアストラル体を使って五次元にも行くことができます。そして、我々は心理（サイキス）だけでなく、オーラやマインド、パーソナリティを持っています。我々のマインドは、ちょうど頭の部分にあります。そこには、目に見えないマインドの段階が存在します。すべての情報、印象を詰めこんだマインドも、心理の浄化と同様に、洗浄し、再生していくことが必要です。うすよごれて、きたない映像しか映し出せないスクリーンを、全くよごれない純白なスクリーンにしていくように。そして、より高い段階では、宇宙の普遍的なマインドと関連を持てるようになります。我々の現状は、自分で作ったマインドの壁、マインドのカラをかぶって、自らをはばんでいるようなものです。パーソナリティは、我々の性質を持欲づけるものですが、マインドやパーソナリティの中に、我々の欲望が宿っています。我々の欲望は、いつも我々とともにいて、この三次元と平行した次元に住んでいます。ですから、我々は夢の中で、まるでロボットか幽霊のように、欲望のままにエゴのしたいことをしています。そして、四次元には、自然界の精たち、我々を助け導く高次の存在があります。また、ネガティブな存在もあります。たとえば、犯罪や動物の殺りくによって流された血の、ネガティブなエネルギーを吸収しにやってくる存在。また、人間の性エネルギーや、人間の消耗した性エネルギーを食べにやってくる存在。そのように、汚染され、頹廃したエネルギーを栄養とする存在、我々を誘惑する存在などがあります。五次元は、生命の表現される次元であり、肉体の死を迎えた魂が存在します。そして、ごく普通の人々、我々のアストラル体も五次元まで行くことができます。でも、それ以上の次元には、このアストラル体で行くことはできません。なぜなら、エゴの宿る重たい体をひきずって、



天使

そんなに上まで飛ぶことはできないからです。我々の肉体は、最も凝縮した、最も粗雑な物質の体です。そして、我々のアストラル体は、肉体よりは洗練された体ですが、霊体としては凝縮した体です。ですから、この密度の高い霊体で上昇することはできません。物理的にできないのです。六次元から上の高次の世界には、そのための特別な乗りものがなければ行くことはできないのです。このアストラル体ではなく、もっと軽く飛べる体が必要なのです。その体が、我々の魂を太陽のもとへ、故郷へと運んでくれる乗りものなのです。我々の性エネルギーを使って、洗練された体、開発されたアストラル体を創らなければなりません。そのためには、2つの仕事を成しとげることが必要不可欠です。それが心理浄化と黄金の霊体を創ることです。つまり、エゴ根絶と、そして性エネルギー昇華による太陽体の形成です。それは、肉体なくしてできることではありません。肉体が、魂の乗りものをつくる唯一のラボラトリー（実験室）だということです。その重要性を知るなら、死にたいと願っている人々も、自殺をすることはやめましょう。ここで、可能性として、次のようなことがあります。六次元（コーサル界）は因果層であり、すべての原因を知ることができます。戦争、天変地異、我々の運命それらすべての原因です。前世で、この六次元に至ることのできる霊体、コーサル体を、部分的にであれ、すでに創っていた人物が、夢の中でここまで上昇してくる可能性ががあります。そして、黄金都市を見たりします。もう一つの可能性としては、次のようなことがあります。我々の波動（バイブレーション）は、開いている目をとじただけでも変化します。そして、瞑想することによって、さらに変化します。そして、大変深い瞑想に至った時、エゴを伴わずに、魂が解放される可能性があります。そうすると、その時、永遠の解放、完全な自由を体験します。そして、悟りに至ることが可能です。たとえ、魂が解放される時が一瞬であれ、時空を越えた次元においては、永遠の解放を味わうことができます。けれども、魂が肉体にもどれば、結局は、今のままの肉体の中、エゴの重い、ぶ厚いエネルギーの中にとじこめられてしまいます。我々が、本当に解放され、高次に至るためには、エゴをなくすしかありません。それを意識をもって行うしかありません。六次元の上には、無限とも交信可能な七次元が続きます。そして、さらに上へと続きます。

このように、上にも下にも、平行する次元が存在しています。その広大無辺の宇宙の中で、人間の肉体を持つ者のみが成し得る仕事によって、我々の魂を救って行くことができるのです。

#### **魂の黄金の衣**

我々は、肉体、霊、魂を持っています。魂は心臓の左心室に、そして、霊の管理局は松果腺にあります。それらは互いに浸透し、一つのもの、一つの体として存在しています。それは我々の体内の1つ1つの細胞、1つ1つの原子（アトム）にもあてはまります。ですから、1つの細胞、1つの原子にも魂が宿っています。

1つの細胞は、物質（肉体）とエネルギー（霊）と意識（魂）とで成り立っています。また、1つの原子は、電子（肉体）と中性子（霊）と陽子（魂）ということになります。そして、すべては1つのものとして浸透しあっていますから、肉体の1つ1つの原子は、霊の1つ1つの原子と浸透しあっています。つまり、物質の原子は、原子の霊（霊的な原子）と互いにとけあっているということです。さて、我々の魂は太陽に属します。そして、太陽のもとへと帰るために、ここ

にいます。我々の霊・心理（サイキス）は月に属します。そして、我々が栄養を与え続けてきたエゴのために、落としめられています。肉体は地球に属し、物質的に生きることを望んでいます。このように、我々にとって最大の問題は、魂、霊、肉体が、バラバラに別々の方向に行こうとしていることです。ですから、外から揺さぶられるまま、押されるままに流されています。自分自身で操縦し、前進することができないでいま



太陽神（インカ）

す。我々はエゴでも、物質でもありません。真の自分は魂です。魂がすべてに優り、我々のすべてをコントロールするものです。魂の目的のために、そのために霊も肉体も与えられているのです。我々は、魂と肉体を1つにするために、霊・心理（サイキス）を使わなければならないということです。魂と肉体の一体化、それが聖なる母の神秘、観音の神秘であり、復活の神秘です。それは、性の大いなる業をぬきにしては、存在しえない神秘です。我々は、全部で7つの体を持っています。目に見える体は肉体だけです。あとは光線の深さと波動の異なる6つの霊体です。性エネルギー昇華については、これまでもお話ししてきました。性エネルギーを脳とハートへ方向づけ昇華することによって、肉体的に得られる効果だけでも、いろいろあります。ガンの予防、血液の洗浄、脳細胞の血液循環の促進、内分泌腺の栄養、体内のカルシウムの強化など。そして熱を生じさせるので体が暖まり、全身の健康を促進します。このように、性エネルギー昇華によって我々の有機的生命は、非常に強化促進されます。しかし、性エネルギー昇華の最も重要な点は、我々を欲望から解放すること、我々のエゴを根絶できるということです。そして、我々の魂の真の衣、黄金の霊体を創るということです。そうすると、性エネルギー昇華によって、6つある霊体を、1つ1つ黄金の霊体



にしていくことが可能だということです。我々は、毎日、水を飲み、食事をします。肉体には欠かさず栄養を与えてきました。でも、霊や魂にはどうだったでしょう？なにも考えてこなかったのではないのでしょうか。もう、魂は弱り、霊もよごれて衰弱しています。昇華された性エネルギーは霊や魂の栄養となります。魂の黄金の霊体の原料となるものです。なぜなら、昇華された性エネルギーは、生きた黄金だからです。このようにして、我々の霊体を昇華させた性エネルギーで包み、満たしていくにつれ、我々の黄金の霊体ができあがっていきます。黄金の霊体、それが我々の太陽体であり、魂の黄金の寺院です。それが黄金の翼となって、我々の魂は六次元へ、さらに高次へと飛ぶことができます。我々が性エネルギー昇華によって、7つの体すべてを生きた黄金のエネルギーで満たす時、その時、肉体も黄金の体となります。物質的な肉体が、永遠の超物質的な黄金の体となるのです。これが復活の神秘です。魂を肉とする、というキリストの言葉の意味は、このことです。魂と肉体の一体化、それが復活です。そして、太陽人になることです。そのためには、心理と性の仕事を欠くことはできません。

魂の目的を実現させるための性の大きいなる業については、多くの文明、宗教の中に秘められ、伝えられています。たとえば、仏教の黄金の袈裟、金色の仏像、男女結合の歡喜仏。そして、ヨーロッパの錬金術。錬金術の賢者の石は、神社の鳥居と同じ意味であり、リング（男根）とヨニ（女陰）と同じです。これらは火と水、十と一、男と女という反対の結合、カミの結合、聖なるアンドロジノス（両性具有）を教えるものです。それらは、時代や宗教の違いはあっても、同じ一つの叡智を教え示しているのです。錬金術の黄金の子ども、それは聖母や観音の抱く子どもです。その子どもは、神聖な男女の結合、火と水の結合によって、我らの内に生まれます。それは、十字の神秘によって生まれる黄金の子です。この内なる子を通して、我らは高次に至ることができるのです。十字の神秘、それは4であり、性の神秘、キリストの神秘です。この4の神秘によって、我々の7つの体を黄金にする時、永遠の生命を手に入れることができます。4+7は11です。11は反対の結合を意味します。ですから、十一面観音が存在します。ここに聖なる母、観音の神秘が表現されています。ブータン王国の仏伝図の1つに、後宮遊戯の図というものがあり、中央には矢を射終えた人物が描かれ、その矢は7本の木を貫いているという図があります。この矢と、矢によって貫き通されている7本の木の意味は、もう皆さん自身で、理解できるでしょう。

## 2. 自然界の精とその交信

宇宙の創造は1つの法の下に、1つの原理によって成されています。そして、1つの原理から、4つの要素が派生しました。それが自然界を構成する4つの要素、火、水、土、空気です。それらの4つの要素の精（エレメンタル）、知性が存在します。この4つの要素については、宗教や神話、哲学、古代文明の遺跡な

どの中でも、シンボルを通して表わされ教えられています。そして、これらの4つの要素は、単に宗教的、哲学的なものではなく、実際に存在する科学的な要素です。地球にも、人間の肉体にも、また1つの細胞にも、この4つの要素があります。自然界の4つの要素、そして、生命の神秘の要素であるエーテル(気、霊気)について説明します。そして、自然界に存在する多くの精について、また、だれでもできる精たちとの交信について、ふれてみたいと思います。

### 自然界の4つの要素とエーテル

火、水、土、空気という4つの要素は、窒素(N)—火、水素(H)—水、炭素(C)—土、酸素(O)—空気という要素でもあります。これらは自然界を構成する基本的な要素で、地球も、肉体も、1つの細胞も、この4つの要素によって構成されています。まず、地球というものを考えてみましょう。地球を表わすシンボルは⊕です。地表は70%が海で、30%が陸地です。ここに水と土の要素があります。そして、空気は大気の中にあります。火は、地球の中心の空洞に存在します。そして、火山を通して表わされます。この火は、太陽と成極する役割を持っています。人間においては、肉体は地球に属し、地球と同じ金属(メタル)、同じミネラルを持っています。それらは生きた金属です。この肉体が土にあたります。そして、体内の水分が水です。空気は、呼吸によってとり入れられ、肺から全身の細胞にゆきわたります。そして、性エネルギーと血が火にあたります。人間は、生まれてくる時は、体内に90%の水分を持っています。そして、その水分はだんだん減り、平均して70%ぐらいになってしまいます。これはどういうことでしょうか。すべての生命は火と水の調和、バランスの中で生きています。火はエネルギーであり、火と水は、常に一緒に存在しています。ですから、90%もの水分を持っているということは、人間はすべてのエネルギーを持って生まれてくるということです。そして、年を取るにつれ、持っているエネルギーを使ってしまうということです。ですから、人体内の水分、70%と言っても、老人の場合は、さらに少ないと言えますし、大変、個人差があります。それは、その人がどれほどエネルギーを持っているか、ということでもあります。我々がスポーツなどで体を動かした時には汗が出ます。運動することによって、エネルギーを消費

します。エネルギーを使うということは、火を使うということです。そのために、火とのバランスをとるために、水分を発散するのです。このように、火と水は、常にバランスが保たれます。これらの4つの要素は十字で表わされ、1つ1つの要素に精霊が存在します。1つの細胞は、この4つの要素から成り立っていますが、それだけでは物質的な細胞にすぎず、生きた細胞となるためには、生命を与えるものが必要です。それが第5の要素、



トラコク (雨の神)

エーテル（気、靈氣）です。4つの要素は目に見えますが、このエーテルは不可視の成分で、自然界の中では、最も繊細な成分です。それは、電氣的なエネルギーであり、生命を与える純粋なエネルギー、エッセンスです。我々は、呼吸によって、エーテルを吸収し、生命を維持しています。この第5のエッセンスは、十字の中心に存在するエネルギーとして表わされます。宇宙のすべてに、あまねく存在しているクリスティックなエネルギーです。エーテルは、三次元のものではありません。不可視の次元からやって来ます。それが、すべてに生命を与えるエネルギーです。ということは、生命のコントロールは、物質界の三次元にではなく、内的な不可視の次元にあります。自然界のコントロールは、内から外へ向かって成されるということです。ですから、不可視の次元に浸透することなく、生命を理解することもできません。我々は、エーテルを通し、不可視の次元に浸透することができますし、これらの要素を知ることによって、自然界をコントロールすることも可能です。

1つ1つの要素、原子（アトム）にも知性が、精霊が存在しています。そしてその精たちを動かす存在もあります。自然界の知性の存在を伝えるものは、世界中で見られます。エジプトのスフィンクス、これも自然界の4つの要素を表現しています。人間の顔が水、獅子の足が火を、羽が空気、鼠を、そして牡牛の体が土を表わしています。スフィンクスは道の交差するところ、十字路のところにあります。古代エジプトのイニシエートたちは、これらの試練を通り、ファラオ（王）となりました。自然界のすべての試練を克服し、超自然的な存在となっていたのです。また、キリスト教では、4人の使徒によって表現されて



四人（マタイ・マルコ・ヨハネ・ルカ）の福音書著者

います。マルコは火を表わし、いつも獅子とともに描かれます。ヨハネは空気であり、鷹とともにいます。ルーカス（ルカ）は土であり、牡牛で表わされます。マタイは水であり、子どもとともにいます。仏教では、須弥山しゆみせんの山頂みねにいる帝釈天たいしゃくてんがエーテルを表わし、その下にいる四天王が4つの要素を表わします。また、

## 自然界の精

エレメント 要素	精霊・エレメンタル	マントラ	デバ(神)	方角
土	土の精、小人(ノーム)	LA	キティチ	北
水	オンディーアンの精女、ワレンの精、人魚	VA	バルーナ	西
火	火の精(サラマンダー)	RA	アグニ	南
空気	シルフィドの精、シルフォの精、風の精	YA	バルバティ	東
エーテル	プンタ	HA	インドラ	天

インドやマヤ、アステカでも自然界の精やデバ(神)が存在します。このように、宗教や文明が異なっても、同じことを教えています。そして、そこで表わされるシンボルは異なっても、全く同じ意味を伝えています。4つの要素とエーテルについて、表にしてありますので、簡単に説明します。エレメンタル・精霊は、それぞれの要素のエーテル的な部分にいる精霊です。この精霊が、それぞれの要素を導いています。マントラは、その精たちと交信するためのものです。交信するための特別の波動(バイブレーション)です。デバ・神とは、その精たちを導き指揮する存在です。この表では、理解しやすいように、インドのサンスクリット語による神をあげています。方角というのは、要素の王国の位置を表わします。

火は火の精、サラマンダー(サラマンドラ)によって導かれています。それは、



サラマンデル(火を導くアトランナー)

とかげを短くしたような、太った姿や、炎の姿で表わされ、火の中に住んでいます。火の精は炎やライオンで象徴されます。また、特に性エネルギーの火を表わすためには、矢をシンボルとして使います。火の精と交信するためのマントラ、RA(ルラー)は、エジプトの太陽神の名前でもあり、それは火と関連します。この発音は後頭部に共振し、意識のめざめや高等感情の開発にも役立ちます。地震は、地球の内部にある火によって起こります。そして、この火は、



アグニ

火山を通して出てきます。火の精は火をコントロールしています。ですから、火の精と交信することによって、火事や火に対しての注意、あるいは人体の体温や血液循環を守るように願うこともできます。また、目に見えない火のサークルを作って、ネガティブな悪いエネルギーから防御することもできます。このように、火の精との交信によって、目に見える物質的な火と、不可視の内的な火の両方を操作することができます。アフリカの例ですが、火の精と交信する儀式を行い、離れた所、たとえば他の部族の所に火をつけたり、消火したりするというのがあったそうです。また、山で遭難したり、道に迷った時など、火の精に助けを願うことができます。寒さから身を守るために、体温や血液循環を保つように、早く助けがやって来るように、早くだれかが捜してくれるように願うことができます。また、乗りものに乗る場合も、その乗りものごと、火の防御サークルを作ることによっ

て、事故から身を守ります。そして、ネガティブな場所に行く時や眠る前にも、この防御サークルを作ることによって、ネガティブなエネルギーの影響、汚染を避けることができます。火の精を導くデバ、火の神はインドのアグニだけでなく、多くの国々でそれぞれの神として存在します。アステカの火の神は、ウエウエテオトルです。これは、アトランティスの起源を持ち、日々の長老という意味を持ちます。創造の起源は火により、火の神はそれ故に、神々の中でも最も長老であるということです。我々の魂も火でできています。そして、火はどこにでも存在しています。

水は、水の精によってコントロールされています。それは人魚で表わされます。水のエーテル的な部分に人魚がいます。ですから、どんなに少しでも、水のある所には人魚がいます。水の精は雨や台風をコントロールします。また、海流や魚の移動などを助けています。ですから、世界のあちこちで、雨ごいの儀式を見ることができます。また、その逆もありますし、洪水のための援助を願うこともできます。水の精との交信によって水を浄化し、聖水にすることもできます。眠る前に、コップなどに水を入れて身近に置いておき、夜の間のネガティブなエネルギーを吸収してもらうこともできます。

空気・風の精は鷲や鷹の翼の1本の羽で象徴されますが、自然界の風をコントロールしています。風は、大気の温度差によって、空気の流れができるからだと言われますが、そうではありません。風を起こし、風を操作している知性が存在し、あらゆる風の方角、速さや強さをコントロールしています。だからこそ、日本の神風も起こったのです。風の精と交信を持ち、神風を起こさせたのです。人



空気の精

々は、このようなことを知らないために信じようとはしません。でも、我々自身が自然界の精とその交信方法を知り、実際に体験していくことによって、自然の理解とコントロールを習っていくのです。それは宗教とは関係のないことです。

土は、土の精、ノームによって表わされ、導かれています。土に関するすべてのこと、地表や地中、また地中の奥深い所の仕事をします。地球の金属のバランスや、それらの金属の変換、たとえば炭素をダイヤモンドまで変換させる仕事などもします。そして、地震に関して、また人間が山や川などで事故やなにかあった時にも、援助を求めることができます。彼らは、自

然や自然医学について、大変深く理解していて、植物や動物の世話をし助けています。ノームは、とんがり帽子をかぶった小人です。彼らは人間の肉体を与えられる前の段階に属し、エーテル状の体を持っています。どこの国に

もいて、その国の人々と似たような格好をしています。寿命は300~400才ぐらいで、大きさは小鳥ぐらいです。視覚、聴覚、嗅覚、触覚などの感覚、走ったり、飛んだり、物を持ちあげたりする力も、人間の数倍はあります。

ノーム同志の交信、あるいは動物との交信にはルーン文字が使われます。これが、世界のすべての文字の元となっているものです。ノームは、物質的な肉体は持っていないので、エーテル成分が少しずつ消えていくという形で亡くなります。ノームにも、悪いノームがいて、それを人間が宇宙人とまちがえたりする場合があります。可視の世界でも、不可視の世界でも、物ごとを区別することを習う必要があります。



ノーム

エーテルは不可視の成分です。遠くの景色を眺めるとき、自分の所から遠くに行くにつれ、景色の色が変わります。それは、そこにエーテル成分があり、そのエーテル成分の色調を見るからです。明るい、空気の澄んだ所で空などを見た時、小さくて丸いような、虫のようなものを見たことはありませんか？空間をピカピカ光って動いています。まばたきをせずに見ると、よく見えます。それがエーテルです。14号の13ページでも、エーテルについておりましたが、エーテルは、その振動、波動によって、それぞれ異なった色があります。宇宙は調和のもとに動いていますから、エーテルも、日の出とともに規則的に、その波動がくり返されます。すなわち、日の出から2時間ごとに、5つのエーテルの波動が24分間ずつ、黒、緑、赤、黄、白とくり返されます。1日に12回くり返されるわけです。ただ、

これは、完全な調和がある場合であり、実際には大気汚染や天候によって影響されます。気温の高い時は赤の時間が多くなり、風の強い日には緑色が、雨の日には白が多くなるというようになります。そして、現代は、公害などのために、大変乱れていると言えます。エーテルの神、インドラは激しい雷神です。この神の発する電気が、すべてに生命を与えるクリスティックなエネルギーです。最も繊細な生命エネルギーですから、電気がなんであるか、だれも知りません。

### 自然界の精との交信

自然界のあらゆる生きものには、その精霊が存在しています。自然界の精は、その精を導き、創造を導いている神々に従うものです。このような自然界の存在は、人間の進化のために、コントロールすることが許されています。三次元に平行する次元や自然界の精を、肉眼で見ることができません。けれども、超視覚によって、あるいは夢やアストラトリップ、ナウリズムによって確認することができます。そしてこれからの時代には、特別のエレクトロニクスの機械が開発されれば、それによって見る事が可能になるでしょう。我々にとって必要なことは、精が存在しているということを知ること、そして、その精たちと交信できるということを知ることです。そして、その方法を習うことです。すべては正しい知識の不足と、その知識を確認する実践、研究調査が不足しています。我々自身、実際に行動するなら、必ずなんらかの手ごたえを得るでしょう。そして、それが次の行動への励ましともなり、さらに実践を深め、多くの解答を得るでしょう。ここでは、植物の精について、ごく簡単にふれ、そして、交信するための方法をお伝えしたいと思います。

まず、あらゆる植物が、*“生きています”*ということを理解しましょう。それぞれの植物は、それぞれの機能と役割を持っています。そのために、それなりの形色、香を与えられています。自然界の精は、自然についてよく知っています。ですから、交信によって、自然や植物学、自然医学などについて、多くの知識を得ることができます。そして、その植物の持数や動きを知ることによって、病気の治療やエネルギーの洗浄、お祓いなど、行うことができます。病気の治療については、そのテーマの時に説明します。それは、植物の持つ薬効成分を使うのでな



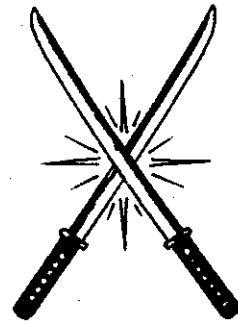
く、植物の精の力によって治療するというものです。さて、「生きている」ということは、感じるということです。そして植物どうしでも、植物と人間とでも交信できるということです。植物の葉緑素が、半導体と同じ性質を持っていることや、植物の持つ送受信能力が日本国内だけでなく、地球をも越えるという研究報告もあります。また、植物に危害を加えようと考えた瞬間に、もう植物の反応が表われたり、植物の前で、動植物を殺した時にも反応が表われ、しかも、それを行った人物を記憶し反応するということが、ポリグラフ（うそ発見器）を使った実験で確認されています。そして、特別のポリグラフによって、単細胞のアメーバなどの反応も測定されたという実験結果もあります。このように、すべての生命体に意識があり、精が存在します。山には山の、海には海の、木には木の精が存在します。ここで、いくつかの植物の機能、精の動きをあげてみたいと思います。かぼちゃは、大勢の前で話をするとか、集団と働くために役立ちます。りんごは、人々の間の問題を避けるのに役立ちます。争っている2人の間に、マントラを書いたりりんごを投げ、争いを静め不一致を避けることができます。マゲイ（龍舌蘭）は友情の植物で、マゲイの精と交信して、仲たがいやけんかをした人との仲を取り持つよう、頼むことができます。オレンジの木の精は、地球の経済をコントロールする役割を持っています。松の木は瞑想の木、霊光の木で、精神的なエネルギーを発します。そして、松の木の精と交信して、未来を知ることができます。肉桂（シナモン）はふんい気を洗淨し、歓喜を与えます。ハッカは、マインドに対する多くの作用を持ち、また生殖機能にも関連を持ちます。子どもがほしいとか、ほしくないという時、ハッカの精に頼むことができます。ただ、子どもが与えられるか否かは、カルマ（業）の法によります。にんにくは、世界中で、ネガティブなエネルギーを拒絶するために使われています。ヤシの木は勝利の木で、闘いに勝った時に、ヤシの木の精が勝利を与えてくれます。それから、植物ではありませんが、2つ例をあげます。ほら貝の音（ファ）は、自然界との交信をはかることができます。これはブツダも使いました。鈴虫やこおろぎの精は、我々の意識の目覚めを後助します。アステカ時代にチャブリンと呼ばれたこれらの昆虫の鳴き声は、意識の49段階に共振します。そして完全な意識の目覚めに至ったイニシエートは、純金のチャブリンが与えられました。このように、自然界のすべては機能と役割を持ち、組織的な秩序の中で存在しています。ウォルト・ディズニーは、これらの自然界の知性の存在を教えました。そして、彼の作品を通して、自然界との交信を教えました。彼は地球人として生まれましたが、彼の魂、エッセンスは火星に属する人物です。

#### 交信のために

自然界の精と交信するためには、そのための特別の方法があります。それは不可視の次元と交信する儀式ですが、魔術的なフォーミュラ（公式）が必要です。儀式を行うには、順序と作法があります。それを簡単に説明します。まず初めに、



このような交信、儀式は、遊びや興味のために行うものではありません。魂の進化のために、本当の愛を生きるためにのみ、行い得るものです。だからこそ、個人的な主観や、願望によって行うのではなく、「聖なる法によって」と願うのです。聖なる法が、神々の意志が許すのならば……ということです。そして、水や火、また植物などの自然界の精に対して人間は命令し、高次の霊には請い願わなければなりません。では、具体的な説明に移ります。ここでは、土の精との交信を例にしたいと思います。同じ方法で、火や水、空気の精とも交信できます。準備するもの——白いテーブルクロスをかけたテーブル。その上には、ローソク、水を入れたコップ、鳥の羽（鶯など、高い所を飛ぶ鳥の羽）、少量の土（お皿などに入れる）、刀、お香（鉱物性や動物性のものでなく、植物性のものが良い）、花を置く。刀は、図のように柄が手前にくるようにして、2本の刀を十字形に交差させて置く。1本の場合はさやと交差させて十字形にする。短刀以外であれば大きさは関係ない。そして、あれば7つの節を持つ竹の棒もテーブルの横に置く。ローソクとお香に火をつける。邪気と雑念を払い、意識を集中する。



(1) 「万物が幸福でありますように、万物が幸運でありますように、万物が平和でありますように」この万物への祈りを、ハートに集中し、3回となえる。

(2) 「AOM（ア-オー-ム-）」のマントラを3回となえる。

(3) 聖なる母に、交信の儀式を行う許可を願う。そして、自然界の精や神々を呼び許可（この場合は土の精）を願う。自分自身の、心からの言葉で、「聖なる法によって」という言葉を忘れずに願う。

(4) 火、水、空気、土のお祓いを、それぞれのストロアをとこなえて行う。火は、右手で刀を持ち、刀先をローソク

の炎に向け十字を切りながら、

3回ストロアをとこなえる。水は、

右手でコップを持ち、水に意識

を集中して行う。空気は、羽を

右手に持ち、腕を伸ばし、頭上

に円を描くように右にまわしな

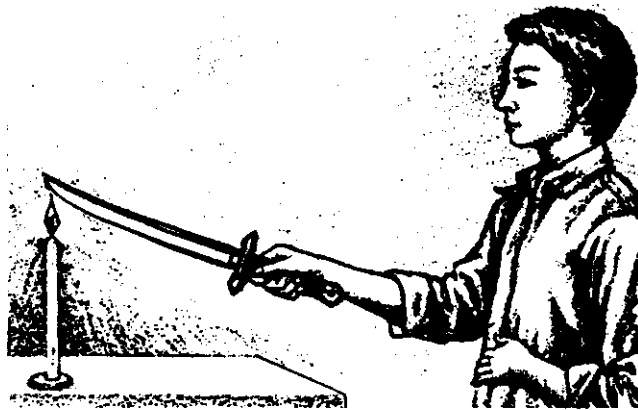
がら（上から見て右まわり○）

ストロアをとこなえる。土は、竹

を右手で持ち床に立て行う。竹

がない時は、土またはお香の灰に意識を集中して行う。

(5) 四の呪文、七の呪文によってふんい気を洗浄する。右手で持った刀を、右まわしにしながら、呪文をとこなえる。



(6)土の精を呼ぶ。「土の精たち、ここに来たれ、キティチの名において」と、土の精に交信の目的、願い事などを頼む。たとえば、なくした大事なものを捜してくれるようにとか、治療、あるいは地震を防いでくれるようにとか、決して遊びや、悪い目的のために行ってはいけない、神聖な心で、尊敬の念をもって行う。

(8)願い事が終わったら、土の精に感謝をささげる。

(9)儀式を導いてくれた聖なる母に感謝をささげる。

(10)火、水、空気、花など、自然界の精の助けに感謝する。

(11)始める時と同様に、万物への祈りの言葉を3回、AOMのマントラを3回となえ、儀式を終える。終えたら、火と香を消す。

このような儀式は、突拍子もないようで信じられない人もあるでしょう。でも、目には見えなくとも、精たちは存在し、大変なエネルギーが活動します。儀式を行う時、そこには大変強い磁場が生じます。強力なエネルギーのうず巻きが、高次とのチャンネル、通路を開きます。そして、メッセージを受けたり、交信することができるのです。でも、現在は、無知と混乱のために、大変、悪いエネルギーを操作する儀式、黒魔術が増加しています。たまされないよう、害を受けないよう、正しい知識を持たなければなりません。ノーシスがお伝えする儀式は、神聖な、ポジティブなエネルギーを操作し、高次との交信をはかるためのものです。聖なる父の意志の許しの下に行います。ですから、防衛のシンボルであるペンタグラムを、儀式を行うテーブルの上に置きます。ペンタグラムは、必ず上向きに、ポジティブな使い方をします。善のためののみ、神聖な儀式を行うことができます。ですから、このような儀式を、ショーのようにテレビで放映したり、商売にして、冒瀆することはできません。大変なカルマ(業)として、必ずその責任をとらなければなりません。ノーシスは、さまざまな知識を皆さんにお伝えします。非常に多くの、奥深い知識です。それは、我々がすべての物事を理解し、その時々々の現状の中で、どのように行動すべきか、どうしたらよいかを、自分自身で判断していくための基準となるものです。ノーシスはたえまない洗練を、物質的な洗練と心理的な洗練を教えます。そのために、性エネルギーの操作と、性エネルギーを使って、いかに心理を洗浄するかということも教えます。それはたえまない闘いです。人生は、終わることのない闘いです。そこにこそ、進化があります。闘うことによって手に入れるものは、自分の自由と自然界のコントロールです。1人1人が、イニシエートになっていくことです。

最後に、交信の時注意しなければならない点と、いくつかのプラクティス、方法をお伝えします。まず交信の際には、交信している相手がなにかを知らなければなりません。宇宙人とコンタクトを持っているとか、宇宙人を見たとかいいますが、本当に宇宙人かどうか、知る必要があります。空気の精や悪いノーム、変化した幽霊であるかもしれません。自然界の精と交信するためには、自分自身の

心理の浄化が必要です。純粋な心が、最も深いコミュニケーションを持たらし  
 ます。妖精を見たり、花や動物と友だちになれる子どもの心の純粋さが必要  
 です。そして、交信を願う時には、なんのために交信するのかを考えなければ  
 なりません。宇宙人とのコンタクトを望んだり、交信のできる人をうらや  
 ましいと思ったりする心の中に、エゴはないでしょうか。なんのために交信  
 したいのでしょうか。宇宙人との交信に、なにを求め期待しているの  
 でしょうか。ただ、なんとなく外からの助けを願うのならば、せっかくの  
 交信も、進化のためにはあまり役立たないといえます。自分の内側から  
 の変革がないのならば、その努力がないのならば、だれも自分を救う  
 ことはできません。交信の儀式を行う時には、正しい目的と強い意識集  
 中が必要です。心からの願いと意識集中によって、ポジティブなエネ  
 ルギーを、そこに集中させることができます。

### ブラクティス

#### 1. エーテルの波動（バイブレーション）の色を見る方法。

我々の肉体的な感覚をとじることによって、超視覚を強制させる方向で活動  
 させる。それが超視覚の開発の援助になる。両手で顔をおおうようにするの  
 だが、まず、親指で耳の穴をふさぐ（左の親指で左耳、右の親指で右耳を）。同  
 様に、人差し指で両目を、中指で両方の鼻穴を、薬指と小指で口を小さく。  
 まず大きく息を吸い、このポーズをとる。息をとめたまま、なにが見えるか、  
 どんな色が見えるかを観察する。超視覚開発のためのマントラをと  
 った後に、これを行ってみるのも、1つの方法である。

#### 2. マインド再生のためのマントラ S M HON

マインドのまるがった記録、汚染を洗浄し、再生していくためのマントラ。  
 Sは蛇、火の音、Mは性ホルモンに共振する。Oはハートに、Nはすべての神  
 経系統に共振する。1日に10~15分、夜の12時前に行う。

#### 3. 火の防御サークル

火があっても、なくても、火に意識を集中し、火のスト  
 ラをとって、火の精に助けを求め、防御のサークルを作るよう  
 命令する。これは不



可視の火のバリアーをつくらせてネガティブなエネルギーが入ってこないよ  
 うにするものである。この時は刀を使って行う。刀がなければ指を使う。  
 指は図のようにして、右まわりに円を描きながら、自分の周囲、乗りもの  
 の周囲に火のサークルを作る。エリオン、メリオンとマントラをと  
 った後、腕を右まわしにする。正面まできたら、テトラグラマトンと  
 いいながら、ペンタグラム、

上向きの星形を描きサークルをとじる。また、山で遭難した時など、火のない所でも火の精を呼び、体温や血の循環を守るよう頼むことができる。そして、早くだれかを呼んでくるように頼むこともできる。火はどこにでも存在している。なお、火を消す時、吹いて消してはいけない。

#### 4. 植物の切り方

植物は生きていますので、痛みを感じる。切る前に、指で十字を切って許しを請う。それによって、ちょうど麻酔がかかったように痛みはなくなる。指は火の防御を作る時と同じである。この指の形で、初めは上から下へ(↓)、次に左から右へ(→)手を動かして十字を切る。最後に円を描いてとじる(⊕)。小さな植物の場合は、十字のかわりに△を作る。毎日、このようにして話しかけることにより、バラの花が7週間も咲いていた例もある。

自然界の精たちは、エーテルの体しか持っていません。人間もアストラル体でいる時はエーテルの体です。でも、肉体を与えられています。この肉体を持って生きる段階を通らずに、上昇することはできません。この肉体を与えられている時を生かさなければなりません。そして、肉体を与えられていなくとも、魂は平等です。どこの段階にいるかという違いだけです。万物の魂は、一つの派から発した同じ火の魂です。ですから、尊敬の念をもって接しなければなりません。我々もかつて、自然界の精だったかもしれ

ません。肉体を持たないノームたちが、自殺をする人間を、どれほどの悲しみと痛みをもって見ているでしょうか。一人一人が、全霊をこめて闘う相手は自分自身のエゴです。肉体を破壊したとしても、自分自身にはなんの変化もありません。無知の死によって期待できるものは、なにもありません。舌痛のほとんどすべては、無知故に起こります。自然をコントロールするには、自分をコントロールしなければなりません。自分自身を知らなければなりません。まわりに起こるすべての事は、一人一人が自分で考え、自分の判断を出していくべきものです。自分を理解するほど、人生を理解するほど、冷静にバランスある道を歩いて行けるでしょう。



ウエウエテオトル

### 火のストラ

ミカエル、太陽と光の王、サマエル、火山の王、アナエル、アストラルの光の王子、ここに来たまえ、我らを助けたまえ  
第三口ゴスの名において、

### 水のストラ

フィアット フィルメントゥム イン メディオ アクアム エ セパレ アクアス アブ アキス クアエ  
Fiat firmamentum in medio aquarum et separet aquas ab aquis, quae  
スーペリウス シクト クアエ インフェリウス エ クアエ インフェリウス シクト クアエ スーペリウス  
superius sicut quae inferius, et quae inferius sicut quae superius,  
アド ペルバトランダ ミラクラ レ ウニウス ソル エアス パーテル イスト ルナ マーテル エ  
ad perpetranda miracula rei unius. Sol ejus pater est, luna mater et  
ヴェントウス ハンフ ヘスタウニット イン ウーテロ スオ アッセンディット ア テラ アド コエルム エ  
ventus hanc gestavit in utero suo, ascendit a terra ad coelum et  
ルルルルルル ア コエロ インテラム デセンディット エクソルシソ テ クリアトゥア アクエ  
rursus a coelo interram descendit. Exorciso te, creatura aquae,  
ウト シス ミヒ スペクルム デイ ウィヴィ イン オペリブス エ jus, et fonvitae, et  
ut sis mihi speculum Dei vivi in operibus ejus, et fonvitae, et  
アブルーテオ ペカトオルム アーメン  
ablutio peccatorum. Amen.

### 土のストラ

聖なる都の12の石、地中にかくされたタリズマン、  
地球の血管に脈うつ7つのメタル、  
地球の中心をつらぬく磁石のくぎの名において、  
土の精たち、ここに来たれ、  
ゴッブの名において、  
ゴッブ チャム ガム アルバルマン

### 空気のストラ

スピリトゥス デイ ファレバトウル スーペー アクアス エ インスピラウイト イン ファシエム  
Spiritus Dei ferebatur super aquas, et inspiravit in faciem  
ホミニス スピラダラム ウィッタエ シット ミチアエレ ドックス メウス エ サビタビエル  
hominis spiraculum vitae. Sit Michael dux meus, et Sabtabiel  
セルガス メウス イン ルーシ エ ペル ルーシム フィアット ウェルアン ハリトウス メウス エ  
servus meus, in luce et per lucem. Fiat verbun halitus meus; et  
インペラボ スピリティアス アエリス フアス エ レフシボ イクオス ソリス ウォロンダテ  
imperabo Spiritibus aeris hujus, et refrenabo equos solis voluntate  
コルティス メイ エ コヒタティオネ メンティス メア エ ノトゥ オククルティ テクストリ  
cordis mei, et cogitatione mentis meae et nutu oculi dextri.  
エクソルシソ イクトウル テ クリアトゥーラ アエリス ペル ペンタグラマトン エ イン  
Exorciso igitur te, creatura aeris, per Pentagrammaton et in  
ノミネ テトラグラマトン イン フィアス スント ウォルンダス フィルマ エ フィアス  
nomine Tetragrammaton, in quibus sunt voluntas firma et fides  
レクタ アーメン セーラ フィアット  
recta. Amen, Sela, Fiat,

四の呪文

カフット モルトウウン インベレット ティビ ドミヌス ベル ウグム  
 CAPUT MORTUUM, IMPERET TIBI DOMINUS PER VI-  
 VUM ET DEVOTUM SERPENTEM.  
 チェルツァ インベレット ティビ ドミヌス ベル アダム ホツチャバ  
 ICHERUB, IMPERET TIBI DOMINUS PER ADAM JOT-  
 CHAVAH! AQUILA ERRANS, IMPERET TIBI DOMINUS PER  
 アラス タフリ セルベンス インベレット ティビ ドミヌス  
 ALAS TAURI. SERPENS, IMPERET TIBI DOMINUS TETRA-  
 GRAMMATON PER ANGELUM ET LEONEMI  
 ミチャエル カブリエル ラファエル アリエル  
 IMICHAEL, GABRIEL, RAPHAEL, ANAELI  
 フリアット ウドール ベル スピリトゥム エロヒム  
 FLUAT UDOR PER SPIRITUM ELOIM.  
 マネアット テーラ ベル アダム イオツァバー  
 MANEAT TERRA PER ADAM IOT-CHAVAH.  
 フィアット フィルマメントム ベル イアフクエフ セバオト  
 FIAT FIRMAMENTUM PER IAHUVEHU-SEBAOT.  
 フィアット ジュディシウム ベル イクネム イン ウイルトゥチ ミチャエル  
 FIAT JUDICIUM PER IGNEM IN VIRTUTE MICHAEL.

死んだ目の天使。この聖水にしたがえ。消えうせろ！  
 羽根のついた雄牛。この剣で刺されたくないのなら動け。土にもどれ！  
 鎖につながれたワシ。この印に従え。この一吹きに消えうせろ！  
 変わりやすい蛇。我の足もとにはいつくばれ。さもなくば。聖なる火によって。  
 舌しみもだえさせられるだろう。そして。我のたく香とともに蒸発せよ！  
 水は水にもどるよう。火は焼きこがすよう。空気はめぐるよう。  
 明けの明星であるペンタグラムの効力により。  
 そして。光の十字の中央に書かれたテトラグラマの名により。  
 土は土の上に落ちるよう。アーメン

七の呪文

ミチャエルの名において。ヘボバがおまえに命令し遠のけるように。チャバホット！  
 カブリエルの名において。アドナイがおまえに命令し遠のけるように。ベリアル！  
 ラファエルの名において。エルナムの前から姿を消せ。サチャビエル！  
 サマエル セバオトにより。そしてエロヒム キボールの名において。立ち去れ。アンドラメレック！  
 サチャリエルとサachelメレックにより。エルバーの前に従え。サナカブリエル！  
 シャダイの神聖な人間的な名により。そして我の右手のペンタグラムの印により  
 天使アナエルの名により。ホツチャバであるアダムとイヴのパワーにより。  
 さがれリリット！我らに手をかけるな ナヘマッ！  
 聖なるエロヒムにより。そして。カシエル。セアルティエル。アフィエル。サラリエルの神々の名により  
 オリフィエルの命令により。さがれモロッチ！  
 我々はおまえのえじきに我が子を捧げたりはしない  
 アーメン